

PPS007-06

会場: 301A

時間: 5月26日15:00-15:15

## 天文における大型プロジェクトの推進とコミュニティの支援体制

### Big Projects in Astronomy and the Support by Community

市川 隆<sup>1\*</sup>

Takashi Ichikawa<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>東北大学大学院理学研究科

<sup>1</sup>Graduate School of Science, Tohoku Unive

天文学分野、特に、光・赤外線分野における大型プロジェクトの推進、中小プロジェクトとのシナジー、コミュニティの支援体制について紹介する。1970年代の終わり、次期大型地上望遠鏡の計画が突如トップダウン式に提案された。物理学などの他分野の参入で天文学のすそ野が広がりを見せつつあった当時、トップダウン的な計画に対する異論が多くの研究者や学生から噴出し、コミュニティが分裂状態にまで至った。そのような中、光・赤外線研究者・技術者からなる全国組織「光学赤外線天文学連合(光赤天連)」が組織され、ボトムアップに基づく大型プロジェクトや将来計画の議論が始まった。光赤天連は国立天文台の次期大型地上望遠鏡建設のための推進母体となり、それはハワイ観測所の「すばる望遠鏡」の成功となって結実した。並行してスペースからの赤外線天文学も発展しつつあり、次第にスペース関係者も光赤天連に参加し、文字通り光・赤外線分野の全国組織となった。スペースにおいても光赤天連での支援を受けながら「あかり」のプロジェクトが推進し、多くの成果を得ることとなった。現在は30m地上大型望遠鏡(TMT)の国際プロジェクト、日本が主体となって推進している国際ミッション赤外線天文衛星「SPICA」の支援を行っている。ボトムアップ的にプロジェクトを推進するために、サイエンスの長期的展望に立脚した天文学の将来計画の策定、そのためのシンポジウムの主催し、TMTやSPICAプロジェクトを底辺から支援する組織の編成などにも光赤天連は大きな寄与をしている。国立天文台の専門委員会の委員の推薦、中小望遠鏡の将来計画、全国の研究者の連携などにも主要な役割を担っている。

キーワード:天文学,大型プロジェクト,ボトムアップ,コミュニティ

Keywords: astronomy, big project, bottom up, community